

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271700124		
法人名	社会医療法人 玄州会		
事業所名	グループホーム みのり	ユニット名	
所在地	長崎県壱岐市郷ノ浦町東触字平1010番地1		
自己評価作成日	2020年11月1日	評価結果市町村受理日	2021年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年12月14日	評価確定日	2021年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり・一緒に・ありのままに」①入居者自身の生活リズムにペースを合わせる。②入居者と共により一緒に各種行事や趣味活動に取り組み、毎日の生活の中で生きがい作りが出来るように、楽しい憩いの場作りをする。③入居者の自己決定権を尊重し、入居者が生活の主体となりその人らしく生活できるように、できる限り入居者の希望や要望を取り入れたケアをする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームみのり”は、2020年2月1日に20周年を迎えた。前年度から職員全員で“20周年祭”の準備を進め、関係者や家族の方々に記念誌を配布する事もできた。ご縁を頂いた方々を思い浮かべながらの記念誌作りで、職員全員で1つの大きな節目を迎える事ができ、多くの祝電やお祝いの言葉に感謝の思いでいっぱいになられた。同年コロナ禍に突入するが、職員の結束は固く、家族のご協力も有り難く、入居者の方々への優しく温かいケアを続けており、周辺の散歩を行い、畑で野菜を作り、敷地内で遊ぶ園児と手を振り合うこともある。時期に応じた家族との面会もでき、入居者の楽しみとなっている。日々の食事は手作り、郷土料理も楽しまれ、庭でランチをする事もある。母体病院と系列クリニックの医師や看護師、PT・OT等との連携もあり、ケア部長(看護師)と密に情報交換が行われている。職員の観察力も素晴らしく、早期対応に繋がっている。管理者、副主任を中心にチームワークも良く、今後もコロナ禍における園児や地域の方々との交流方法を検討していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①家族面談時に情報開示・説明を行う。②光風の社会福祉士等へ相談する。③沓岐市役所担当者との連携。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①入居前にみのり内の見学会を実施。実際に内部の状況を見ていただき、環境説明を行う。②料金体制・事故や急変時の対応・重要書類についての説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①入居者の受け持ちを職員が担当している。②家族面談では苦情等の意見が聞きやすいように話し合いの場を設けている。③入居者の状況については各担当職員より報告し、みんなで意見交換を行っている。	2020年8月、コロナに関する家族アンケートを行い、感染状況に応じた面会方法の検討が行われた。時期に応じて窓越し面会になる時もあるが、暮らしぶりを報告し、通信も作成し、家族の不安軽減に努めている。職員の「笑顔で挨拶」や日々のケアの家族評価は高く、職員も励みになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①定期的な個人面談で職員の個人目標・要望などを確認する。②ミーティングでは職員一人一人に発言の場を設けている。	ケア部長、管理者、副主任を中心に職員は結束し、幹部の方々に相談しやすい環境が作られている。各委員会活動でマニュアルの検討や改訂も行われ、多職種連携を含めた情報交換の機会も多く、日々勉強になっており、外部研修(ユマニチュード等)の伝達研修も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談時に現在の仕事に対する要望や不安・悩みや健康面での心配事などを話し合えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年間目標をもとに個人で参加できる研修会や勉強会への参加の促し。年2回の個人面談で職員の目標や課題の確認を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	光風への研修会・勉強会への参加。法人内や沓岐島内で行われる研修会への参加を促している。GH沓岐の郷との職員実習で情報交換を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴やご家族との関係性を考慮し、趣味や希望などを確認しながらみのりでのサービスを導入している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にはまず施設見学をして頂き、みのりでの生活について説明を行っている。また、本人・ご家族の希望や思いを聞き、本人の要望に合ったケアサービスを導入する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の望む生活について、家族を含めて話し合い課題やリスクを検討し、みのりでのサービスが困難であれば法人全体でサポートする取り組みを図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員が共に生活を過ごす場所として、お互いの役割を確認し、リネン交換や掃除・調理等を共有、普段の暮らしの中で思い作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面談や電話での聞き取りで、ご家族の要望を伺い外出や誕生日会の開催など一緒に過ごせる時間が多く持てるようにサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①ご家族との外出・買い物・お墓参り・散髪を定期的に行う。②ご家族へは家族会への参加を呼び掛ける。③花見やドライブなど地元をめぐる外出・外食・夏祭りへの参加。	生活歴(家族・仕事・趣味等)を把握している。暑中お見舞いや年賀状を家族等に郵送したり、コロナ前は地域の祭り等に参加し、馴染みのスーパーや美容室等にお連れしていた。自宅周辺のミカン狩りも楽しまれ、ご本人が耕していた田畑の見物に出かけたり、知人の方がホームにいられていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブル席・ソファ席等の配慮、個人の個性や性格を考慮して、入居者間のトラブルが起こらないようにしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や逝去でみのりを退去された方には、お見舞いや弔問・葬儀へ出席。面会の機会を設けたり、電話でご家族の近況報告を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①居心地の良い環境づくりを目指し、本人が何でも話せるように職員は身近な存在として接している。②意向の把握が困難な方はご家族に協力依頼し、なるべく本人の希望に沿うように努めている。	コロナ前は「買い物に行きたい」「家に帰りたい」「お墓参りに行きたい」などの要望を把握し、家族と一緒に願いを叶えていた。コロナ禍も「家族に会いたい」「草取りがしたい」「野菜の収穫をしたい」「散歩に行きたい」等の願いを叶えており、介護計画に盛り込まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①本人の希望を聞き、家族面談の際に確認する。②みのりでの暮らしの中で仕草や言動を手掛かりに、本人の生活歴を把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①朝夕のバイタルチェック。身体状況の変化に気をつけて観察する。②入居者一人一人の生活リズムに合わせた活動の支援を行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の希望や意見は生活の中で確認し、家族の要望などは面会時や家族面談を行い、その都度要望を伺うようにしている。介護計画の作成は担当スタッフを中心に、医師や看護師の意見も取り入れて作成している。	前回の外部評価以降、「ひもときシート」を活用し、最適なケア内容の検討を続けてこられた。計画には調理の手伝いや掃除、洗濯物たたみ、野菜の収穫、体操、散歩等と共に、コロナ前は「自宅の夏ミカン収穫」「レストランでの外食」「家族と外出」「自宅の仏壇参り」等も盛り込まれていた。	前回の外部評価以降、「有する能力」「各活動の要望」「各行動の原因」等を増やしてこられた。今後はアセスメントに「認知機能」を増やし、計画(2票)の担当者に「ご本人」を追加し、3票の一番右欄に「各活動の留意点」を記入予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者のケアについて改善や変化が見られる場合には、介護記録に残し職員が情報共有できるようにし、ミーティング等で計画の確認・見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	光風管理栄養士による食事バランスのチェック、PTやOTによるベッド上での最適な食事姿勢の指導、入居者に合った椅子の高さ調整などを行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①吉崎市ヘルスマイトとの連携による食事会 ②渡良小学校生徒とのふれ合い体験 ③自治区内の祭りや地域行事への参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①福島クリニック医師によるみのりでの定期的な往診(1回/月) ②状態異常時や本人・家族の希望時の診療依頼 ③協力病院での定期健診(1回/年)	職員の観察力で早期対応に繋げており、看護師が通院介助している。ケア部長(看護師)と主治医との情報交換を密に行い、急変時は通所サービスや老健の看護師との連携もできる。PT・OTからベッド上での最適な食事姿勢や椅子の高さ調整等のアドバイスを頂き、日々のケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態変化があった際には、光風看護師・福島クリニック看護師に報告し、医師の指示が適切にケアへとつながるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の情報シート・看介護サマリーなど必要な情報を提供し、面会を通じて本人・家族の状況を確認する。また、退院時には病院からの情報をもとにカンファレンスを行い、ケア計画の見直しを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①「私の事前説明書」を使用し、本人・家族の思いを書面で確認する。②みのりでの看取りケアについて説明を行い、家族の要望や想いを確認する。③医師と連携し、最後の時まで安心して暮らせる環境作りを行う。	ホームで「できること」「できないこと」を説明している。「最期までホームで」「最期は病院で」「まだわからない」等の意向を確認し、体調変化に応じて医師や看護師、管理栄養士、PT、OT、職員と話し合い、家族面談を続けている。誤嚥予防等の勉強会も行い、嚥下状況に応じて点滴治療も行われている。職員全員で誠心誠意のケアを続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク委員会を中心に事故対策の勉強会や研修会に参加し、入居者急変時のシミュレーションを行っている。緊急時の状況を職員が把握し、他部署との連携がとれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年間計画の中で、各種の災害を想定した避難訓練を立案し、1回/月に行っている。毎年8月は地域の消防署・消防団と連携連携して夜間想定避難訓練を実施している。IHコンロの設置、電化製品の一覧表を作成して電化製品の経年劣化がわかるようにしている。	コロナ禍はシミュレーション訓練を続けている。コロナ以前は系列通所介護と託児所職員、消防署、消防団、市役所職員、老人会の会長等と19時30分から訓練したり、台風、津波、竜巻、落雷、原発事故、豪雨等を想定した訓練を年4回行い、入居者も避難後の外食が楽しみで、積極的に参加して下さっていた。飲料水2L×12本や各種食品、卓上コンロ等を備蓄し、2020年9月の台風時は系列施設「光風」に1泊避難し、多くの学びを得ることができた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の話を傾聴し、優しく寄り添えるように努めている。入浴や排泄などのプライバシーに触れる場合には入居者の同意を得ながら対応を行っている。	馴れ合いに気をつけると共に、“介護のプロ”として個々の入居者に寄り添うケアを続けている。理念の「③入居者の自己決定権を尊重し、入居者が生活の主体となりその人らしく生活できるように～」も大切に、入居者と職員が「家族の一員」として生活できるような信頼関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①散歩や外出の希望があった場合には、買い物計画を行って一緒に外出を行う。(コロナ前) ②家族に会いたい等の面会希望には手紙のやりとりや電話で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴やレクリエーションへの声掛けは本人の希望を聞き入れ、時間をずらす等入居者の生活リズムに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔・整髪などの整容を行い、若く見られる服装に気を配る。入浴の際など本人が着用したい服と一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①入居者と一緒におはぎやホットケーキなどのおやつ作りを行った。②食事会の際には入居者の食べたいものを聞き、実際の調理は一緒に行った。	入居者の食べたい物を献立に加え、畑と一緒に収穫した野菜や芋も使用し、美味しい料理が作られている。入居者も包丁で皮むきやお盆拭き等をして下さり、ケア部長の庭で採れた梅や“いくり”を使い、梅酒や“いくり酒”を作られている。光風の管理栄養士に献立のアドバイスを頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表を作成し、食事や水分の摂取量が少ない方は医師と連携しながら、本人の食べたいものや飲みたいものなどを提供し、口から食べることを継続して頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後の口腔ケアの施行。②入れ歯洗浄剤による義歯の洗浄。③入居者の口腔内状況に合わせてガーゼやスポンジブラシを使用している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①排泄チェック表の活用、排尿便のパターンを把握して漏れや汚染が無いように気をつけている。②便秘傾向の方は医師に相談し、内服薬や下剤で調整している。③便秘対策として粉寒天を水分摂取時に提供している。	ご本人の排泄希望を大切にされており、下着を使用し、トイレで自立している方もおられる。必要に応じて事前誘導を行い、個別にパッドを選び、失禁を減らすように努めている。座位が困難な方はおむつを使用し、交換時はスクリーンカーテンを使用している。2名で介助する時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①適切な水分補給を行う。②食事には野菜や果物を多く使用する。③テレビ体操やレクリエーション、散歩などの運動で腸を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望を聞きながら、入浴カレンダーを使用し週に2回以上の入浴ができるようにしている。その日の入浴が困難な場合には翌日以降での入浴が出来るように調整している。	その日の入浴気分を確認し、楽しく入浴できるように声掛けしている。シャンプー等は希望の物を使い、できる所は洗われている。重度化でリフト浴が難しい方もおられ、職員2～3人でシャワー浴をさせている。入浴時は職員との会話が弾み、柚子湯も行う予定であり、同性介助も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠が十分にとれるように、昼間は体操やレクリエーションなどのアクティビティ、みのりを出て散歩や庭掃除なども行っている。また、本人用のパジャマや寝具も入居者に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧表を作成し、内服薬の追加・変更がわかる様にしている。職員の申し送り記録にも内服薬の追加・変更については記述をして、全ての職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や嗜好を把握し、本人の好きだったことや趣味(畑仕事・散歩・歌会など)が続けられるように支援している。また、希望があれば家族や地域の方との面会が出来るように支援している(コロナ前)。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望があればいつでも散歩・外出が出来るように努めている。自宅への外出や買い物などは家族と連携し、日程調整を行いながら入居者の要望に合わせて行っている。	コロナ禍も敷地内の散歩で桜の花見をしたり、畑の見学や野菜の収穫、草取り、ガーデンランチ、車窓から紫陽花見学等を楽しまれている。コロナ以前はレストラン「結」等での外食、季節の花見(桜・藤等)、花火大会、馴染みの場所のドライブと共に、避難訓練後にドライブを兼ねた外食などを楽しんでいた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者・家族の希望でお金を自身で所持できるようにしている。また、家族との外出時には好きなものを自分のお金で支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会が十分にできない為、近況の写真を同封した入居者直筆の手紙を家族宛に送ったり、入居者の希望があればいつでも電話で家族と話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の換気と芳香剤の使用をして臭気が目立たないように配慮している。テーブルには花や飾りを設置して入居者に目で見て楽しんで頂いている。居室には家族が持参した写真やぬいぐるみを棚やベッドに配置して、家族との思い出がながるようにしている。	天井が高く、リビングも広く、開放感のある暮らしをされている。高齢の方も多く、居室で休まれる時間も増えているが、ソファでの団欒やテレビ鑑賞、洗濯物たたみと共に、体操や歌を唄って体調管理を続けており、夜間の安眠に繋げている。温湿度調整に気を配り、排泄後の消臭対策で空気清浄器を設置し、適宜換気も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファの席は、気の合う方や同郷で昔馴染みの方には席を近くに配置したり、他者との交流を気兼ねされる方にはゆっくりと落ち着ける席を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が愛用している寝具・家族写真や飾りもの・愛読書などを置いている。衣類は入居者が好むものを取りやすいように準備している。	各居室に大きな収納棚があり、棚の上に家族の写真、鉢植え等が置かれている。低床ベッドも2台あり、高さを15cmまで下げることができ、エアマットを使用する方もおられる。筆筒や布団、日記、手帳、本、雑誌等も持ち込まれ、担当職員が紙で仏壇を作り、ご本人が手を合わせる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が自分の部屋を把握できるように入り口に名前と顔写真を使用している。		